

私立 大阪女子短期大学

取組名称 **就職率向上を目的とした未内定者対策と効果的キャリア教育の展開**

取組担当者 **教学課 課長 影山 功**

1. 本学の概要

大阪女子短期大学は、1954(昭和29)年に学園創設者の谷岡登が、「短期間で教養と専門を身につけさせる女子校、女子短期大学がこれからの社会に絶対に必要になる」と予見し、「高い教養と婦徳の涵養」を目的・使命に掲げ、1955(昭和30)年4月に開学した。

その後も、時代の趨勢に迅速に対応した改組・改編を行い続け、また1997(平成9)年には学園の建学の理念である「世に役立つ人物の養成」を「思いやりと礼節」「基礎的実学」「柔軟な思考力」「楽しい生き方」の4つの柱に具現化し、全学的教育目標とした。

以上の理念と目標を実現するために、2008(平成20)年度に新たな短期大学教育として、全学としてのディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの三つの教育方針を立て、建学の理念を底流とした教育で基礎的人間力を涵養しつつ、基礎科目、教養科目、専門科目、キャリア科目の4つの教育課程を設定して、総合的人間力の養成に努めている。

■学科構成及び在籍者

生活科学科

ライフプロデュース専攻

食物栄養専攻

人間健康学科

幼児教育科

在籍者数 509名



写真1 大阪女子短期大学 1号館

2. 本取組の概要

2008(平成20)年に米国で起きたリーマンショックは、その後の日本経済や雇用環境に深刻な影響を及ぼした。新卒者を取り巻く就職環境は急速に悪化し、就職氷河期の再来と言われたとおり、2009(平成21)年度の卒業予定者の内定率は全国的に前年度を大きく下回り、これは本学においても例外ではない。2年生の未内定者の中には、就職環境の厳しさから就職意欲を低下させ、就職そのものを諦めつつある者も少なくない。そのため、学生の就職意欲を喚起し、内定獲得へと導くためのフォロー策を講じるなどの徹底した支援を行う。

一方、短期大学の2年間という限られた期間において、学生の職業観の涵養や社会人力の養成、さらには就職活動のノウハウまでも指導するためには、入学直後からの就職支援が不可欠であることは言うまでもない。この現状を踏まえ、2010(平成22)年度より、1年次の必修科目として「キャリアデザイン演習」を開講し、加えて就職活動に直結したガイダンスを展開するなど、早期指導を基本とした全学的な就職支援体制を確立することで、ミスマッチのない進路選択とスムーズな就職活動を可能にし、就職率の維持・向上を図る。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

急速に冷え込んだ就職環境に直面し、就職活動に対して消極的になっている学生や、内定が得られず就職意欲が低下している2年生を対象に就活フォローアップ講座を実施し、モチベーションと就職力の向上を図り、具体的就職活動へと移行させる。さらに、キャリアカウンセラーを導入することにより、学生個々に適したアドバイスを行い、学生はミスマッチのリスクが少ない就職選択が可能となるよう、きめ細かな支援を行い、学生の就職内定をサポートする。

また、2010(平成22)年度より、1年次においてキャ

リア教育科目を開講し、併せて実践的内容の就職ガイダンスを実施するなど、社会人や就職力を身につけさせるための全学的な就職支援態勢を強化する。

本取組では、以上の内容を通して、厳しい就職環境下においても安定的な就職率の維持・向上を図ることを目的とする。

(2) 達成目標

本取組での「就職を諦めさせない」支援策により、未内定者の意識変化を促し、行動力を引き出すことで内定確保が期待できることから、2009(平成21)年度の就職率を前年度比5ポイント前後の減少に抑制することを目標とする。

また、2010(平成22)年度においても、様々な取組ときめ細かな支援により、2009(平成21)年度以上の就職率を確保し、さらにキャリア教育が浸透する2011(平成23)年度の就職率は、2008(平成20)年度並みの94%程度まで回復を目指すものとする。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 未内定者フォローの展開

(i) 就活フォローアップ講座の実施

本講座は4部構成とし、参加者が主体的な参加となるよう、座学とワークをバランスよく編成して行う。

第1部では、各分野から5名の社会人女性を招聘し、未内定者との座談会形式での対話を通して、働くことの意義や楽しさ等、経験談を交えた生の声を聞かせ、就職の大切さを理解させることにより、就職意欲の喚起を図るものである。



写真2 就活フォローアップ講座(第1部)

第2部及び第3部は、就職活動の復習講座と位置づけ、外部講師が求人探し方や企業へのアプローチ方法、履歴書の書き方等を指導し、具体的就職活動について再確認させるものである。

第4部においても外部講師が担当し、就職試験で最

も重要となる面接での注意点や、採用側の視点に立ったポイント等を説明。自己の改善点を正しく理解させることで、面接試験に対する自信を引き出すとともに、実践的指導により成功に導くことを目的とする。



写真3 就活フォローアップ講座(第2部)

(ii) 電話による状況確認の徹底

電話での徹底調査により、未内定者の現状把握や進路不明者の掘り起こしを行い、必要に応じて電話相談を行う。また、調査を就活フォロー講座の第2部実施前に設定することにより、調査で未内定が判明した学生に対して、講座への積極的参加を促すこととする。

(iii) キャリアカウンセラーの導入

学生にミスマッチのない進路選択を実現させるため、キャリアカウンセラーによるカウンセリングを実施する。就職に消極的になっている未内定者には、学生個々に適したカウンセリングが重要であり、カウンセラーの適切なアドバイスにより就職の重要性を再認識させ、また将来の目標を明確にさせる機会とする。さらに、未内定者の多くに見受けられる就職活動への不安を払拭することも意図する。

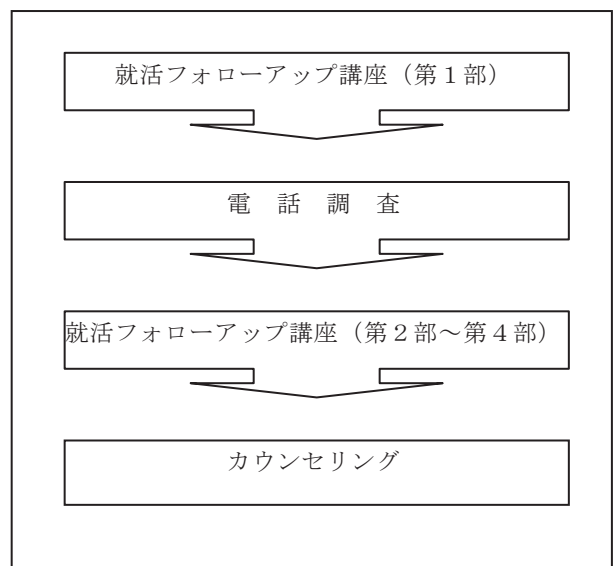


図1 未内定者へのフォロー体系

(2) キャリア教育科目の導入

以前より、様々な取組を通して学生の就職支援を行ってきたが、教育期間が2年間の短期大学においては、キャリア教育の早期展開は不可欠となってきた。さらに、新卒者を取り巻く昨今の就職環境を鑑みれば、キャリア教育の推進は尚更である。

このような現状を踏まえ、2010(平成22)年度より1年次にキャリア教育科目を必修科目として配当し、前期に「キャリアデザイン演習Ⅰ」、後期に「キャリアデザイン演習Ⅱ」として開講する。

授業は、学生が能動的に取り組めるよう、座学だけでなくワークやディスカッションを積極的に取り入れた内容とし、また適切な教育を担保するため、各クラスとも25名前後の少人数体制で運営する。

(i) キャリアデザイン演習Ⅰ

本授業は、社会人としてのキャリアをデザインしていくための基礎的な要素を理解させることにより、職業観の涵養や就職意欲の向上、基礎的社会人力等の養成を目指す。具体的には、自己分析に基づいた自身のワーキングスタイルの明確化、ゲームを通じたコミュニケーション力の育成、発表機会を多用したプレゼンテーション力の強化、さらにはマナー等の実践教育を行うことにより、社会人として求められる資質を養うものである。



写真4 「キャリアデザイン演習」授業

(ii) キャリアデザイン演習Ⅱ

後期開講の本授業は、就職試験で問われる基礎学力を養うとともに、就職活動全般について学ばせる。この学びを通して、社会的基礎能力に対する理解を深めさせ、自己のキャリア形成の実現をイメージさせることを目的とする。

授業の主な内容は、就職試験に多用される言語、非言語問題及び経済、時事等に対して理解させ、業界研究や企業研究を通して適切な就職選択の必要性を認識させることである。また、授業の運営方法については、グループワークやクイズ、ロールプレイング等を用い

て、学生が楽しみながら学べる工夫を行い、全員参加型の授業とする。これにより、学生の積極性を引き出し、同時にコミュニケーション力の向上も図る。

(iii) 就職活動テキストの活用

キャリアデザイン演習の授業では、本学独自の就職活動テキスト（GATE—社会への扉—）を作成し、1年次の5月に配付。テキストは、主に就職活動の具体的な内容を網羅したものとなっており、学生にとっては就職活動におけるバイブル的なツールとして活用させる。従来は、就職活動が本格化する1年次の1月に配付していたものであるが、本テキストのさらなる活用と授業の一層の充実化、また学生の就職意識を高めることを目的として、本授業において使用する。



写真5 就職活動テキスト

(iv) 担当教員との意見交換

授業実施に当たっては、より充実したものにするため、授業期間中に担当教員と進路支援委員会及びキャリアサポート室による意見交換を定期的に行っていく。これにより、学生の授業への取組姿勢や理解度、授業の進捗状況等が確認できるとともに、多様な視点で議論することにより問題点や改善点が明確となり、より良い授業運営が期待できるものとする。



写真6 担当教員との意見交換

(3) 取組の実施体制

本取組は、全学的取組との共通認識のもと実施するものである。その中心となるのが、教員で組織する進

路支援委員会、クラス担任及びキャリアサポート室である。また、キャリアデザイン演習に関しては、正規科目という位置づけから、当該科目には専門知識を有する教員を配置する。

5. 本取組の評価体制・評価方法

本取組では、進路支援委員会が中心となり、自己点検評価委員会、クラス担任及びキャリアサポート室が連携して進捗状況の確認や評価及び検証を行い、必要に応じて学外の有識者で構成する運営諮問会議に意見を求める。

また、在学生へのアンケート調査をはじめ、卒業生や本学学生の採用企業・団体等に対して調査を行うなど、多様な方法により本取組の客観的評価体制を構築する。



写真7 進路支援委員会による取組の検証

6. 本取組の実施計画等

(1) 実施計画

2009(平成21)年度においては、未内定者に対して卒業を間近に控えた2月に就職への意欲作りや具体的就職活動の復習的プログラムを中心とした就活フォローアップ講座とカウンセリングを行う。

また、2010(平成22)年4月より開講する1年次キャリアデザイン演習は、シラバスに沿って授業を進め、各期終了後に評価・検証を行い、次年度の当該授業や他の就職支援に反映させるものとする。

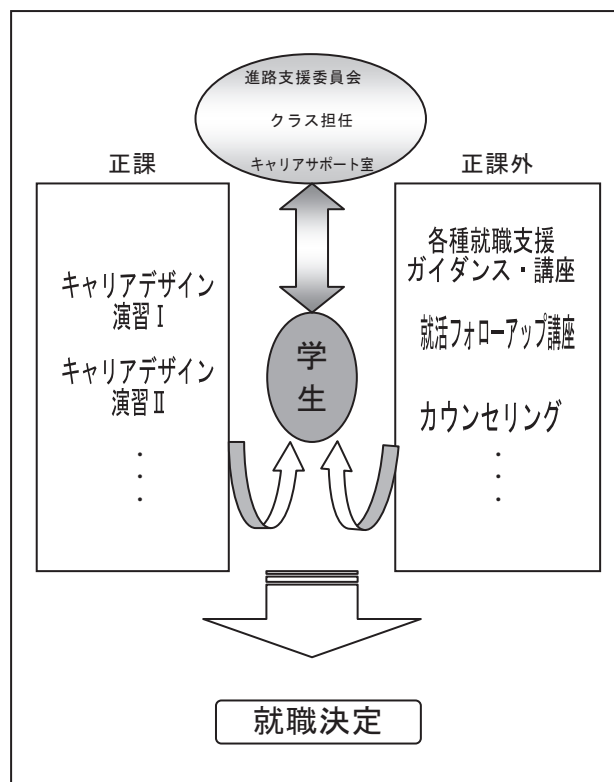


図2 就職支援体制

(2) 財政支援期間終了後の展開

就職率の維持・向上を図るためには、本取組は不可欠と考える。従って、未内定者対策は今まで以上に早期且つ内容を強化して行う。また、1年次のキャリア教育科目についても継続的に開講し、評価・検証を繰り返しながら、キャリア教育のさらなる充実と実践的指導等により、全学的で体系的な就職支援の一層の整備を図り、厳しい就職環境に対応し得る体制の構築を目指していくこととする。